

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第 18 回幹事会議事要旨

- 1 日時：令和 3 年 10 月 13 日（水） 11 時 00 分～11 時 30 分
- 2 場所：オンライン（Web 会議システム Zoom）
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤（副会長）、岡島、石濱
陪席者：西田（防災科学技術研究所）、松本（〃）、倉谷（〃）、田代（〃）、高田（セコム）、
斉藤（筑波大学）、高野（〃）、秋葉（〃）、鈴木（〃）、根本（〃）

（敬称略）

4 議事

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

(1) NTT 宇宙環境エネルギー研究所の入会について

遠藤副会長から、資料 1 に基づき、NTT 宇宙環境エネルギー研究所からコンソーシアム入会申込書が提出された旨の説明があり、入会が承認された。

(2) 令和 3 年度総会・運営委員会委員の追加について

遠藤副会長から、資料 2 に基づき、NTT 宇宙環境エネルギー研究所より総会・運営委員会委員として岡崎勝彦氏の選出があった旨の説明があり、原案のとおり承認された。

(3) Joint Seminar 減災との共同シンポジウム（第 5 回シンポジウム）の開催について

遠藤副会長から、資料 3 に基づき、令和 4 年 2 月 14 日（月）に Joint Seminar 減災との共同シンポジウムが予定されていること、並びにそのタイトル・登壇予定者等について説明があり、原案のとおり承認された。また、現在、筑波大学で調整中の講演者 1 名については、状況に応じて林会長に人選の協力を要請することが確認された。

また、現在、筑波大学でコンソーシアム運営のために措置されている予算は来年度以降の状況が未定のため、今後のシンポジウム等に係る旅費を各参画機関で負担可能かについて意見照会があり、防災科学技術研究所、セコムともに現時点では負担可能であることが確認され、運営委員会においても同様に各機関に照会することになった。

(4) 令和 3 年度活動計画について

遠藤副会長から、資料 4 に基づき、令和 3 年度年間活動計画の修正案が示され、原案のとおり承認された。第 18 回幹事会で候補日時が検討された次の会議日程については、今後メールにより最終的な日程調整が行われることとなった。

➤ 第 19 回幹事会・第 12 回運営委員会：令和 4 年 3 月 7 日（月）、9 日（水）、または 14 日（月）の午後

(5) JST「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）」の申請結果について

遠藤副会長から、コンソーシアムを支援基盤組織として申請した JST「共創の場形成支援プログラム」について、面接審査の結果、残念ながら不採択となったことが報告された。今後、JST の相談窓口も活用して提案内容をブラッシュアップし、来年度、再度申請も検討することが共有された。

(6) 第 4 回シンポジウムの申込状況・参画機関参加状況について

遠藤副会長から、資料 5-1 及び 5-2 に基づき、同日午後に開催する第 4 回シンポジウムに 200 名超の事前申し込みがあった旨の報告があった。

(7) その他

特に無し。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

(1) 協働大学院教員の推挙について

岡島委員から、資料 6 に基づき、コンソーシアムから産業技術総合研究所の研究者 1 名を協働大学院教員に推挙することへの依頼があり、原案のとおり承認された。また、今後は運営委員会の承認を経て推薦された者を筑波大学の人事審査フローに沿って手続が進められることが確認された。

(2) 紀要「リスク・レジリエンス工学研究」別冊としてのコンソーシアム活動報告の刊行について

岡島委員から、資料 7 に基づき、今年度から、学位プログラムで発行している紀要「リスク・レジリエンス工学研究」の別冊として、コンソーシアム活動報告を刊行することについて提案があり、原案のとおり承認された。また、今後原稿執筆を依頼する際には協力を求める旨の要請があった。

(3) 秋学期における対面授業の実施について

岡島委員から、資料 8 に基づき、秋学期は感染拡大防止に配慮しつつ、対面授業も実施されている旨の情報共有があった。また、協働大学院教員及び非常勤講師の担当授業については、世話人教員との個別調整により実施方法を決定し、授業を行っている旨の報告があった。

(4) その他

特に無し。

以上